

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人お茶の水女子大学

1 全体評価

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、全ての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障されて、自身の学びを深化させ、自由に自己の資質能力を開発させる支援をすることを目指している。第3期中期目標期間においては、国境を越えた研究と教育文化の創造と、夢の実現を支援するための学びの場を提供し、時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成するとともに、女性の生涯にわたる生き方のモデルを提供すること、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、戦略的研究組織として位置づける「グローバル女性リーダー育成研究機構」及び「ヒューマンライフィノベーション開発研究機構」に学内予算を重点配分し、国際的研究拠点形成事業を推進するとともに、民間企業と学生が協働し、女性活躍促進のための課題解決を図る「女性活躍促進連携講座」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- ヒューマンライフィノベーション開発研究機構に設置されたヒューマンライフィノベーション研究所及び人間発達教育科学研究所では、研究力強化のため学内資源の重点配分を継続的に行い、人間の発達段階に応じた心身の健康と生活環境の向上に資する研究を大学、企業、国内外の研究機関と連携して行っている。令和2年度は、ヒューマンライフィノベーション研究所の研究者をプロジェクトマネージャーとし、10大学・研究機関からなる研究グループ、かつ協力機関として研究機関17機関、企業35社が参加する大型研究プロジェクト「ムーンショット型農林水産研究開発事業」に採択（予算額：5年間約12億円）されている。（ユニット「健康科学・人間発達科学分野における国際的研究拠点形成」に関する取組）
- 令和2年度は、重点研究領域で実績のある外国人研究者を特別招聘教授として雇用するとともに、オンラインによる国際シンポジウム・セミナーを通じて国内外より女性研究者を29名（外国人研究者15名、国内研究者14名）招へいしている。特に、外国人研究者のうち10名は新規であるほか、アジアにおける女性リーダーに関する研究推進のため、7名はインドネシア、タイ等のアジアの研究者を招へいしており、重点研究領域の活性化や連携拡大を推進している。（ユニット「グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 戦略的資源配分による研究推進

学長のリーダーシップの下、大学の機能強化に向けて、戦略的研究組織への学内予算の重点配分を行ったことにより、ヒューマンライフイノベーション開発研究機構において、10大学・研究機関からなる研究グループ、かつ協力機関として研究機関17機関、企業35社が参加する大型研究プロジェクト「ムーンショット型農林水産研究開発事業」に採択（予算額：5年間約12億円）されるなどの成果をあげている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 科学研究費助成事業の推進

学術研究の高度化と産学官地域連携活動を推進する役割を担うリエゾン・URAセンターでは、科学研究費助成事業獲得に向けて、基盤となる研究実績に必要な産学連携や財団の奨学金等の獲得のための支援を行っており、令和2年度の科学研究費助成事業の採択件数は156件、獲得額は約2億5,389万円（対前年度比約3,926万円増）であり、第3期中で最高となっている。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 企業と連携した「女性活躍促進連携講座」の実施

民間企業と学生が協働し、女性活躍促進のための課題解決を図る「女性活躍促進連携講座」を令和元年度より開設しており、令和2年度においては、民間企業14社と連携しワークショップ形式で実施している。6回のワークショップでは、LGBTQと職場、就活・入社、キャリアアップ、子育て等の女性の社会活躍推進やダイバーシティとインクルージョンにおける課題について、企業からの参加者と学生でディスカッションを行い、多様な価値観や具体的な行動のアイデア等の気付きを共有している。